

2025 年度 事業報告書  
2025 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日まで  
(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

1. 事業概要

2025 年度(第 14 期)は、新規事業として里子版健康手帳作成事業(事業1)及び、看護師の学会参加費用補助(事業4)を実施した。また、これまで本会で実施してきた放射能被曝をモニタリングする検査の結果を個人ごとに電子化して、本人が求めてきた時にデータが開示できるように整備した。

2025 年 11 月に全国児童養護施設部会 全国大会が福島県で開催されることから、児童養護施設に協力を求める事業については、時期を調整した。

2011 年 3 月東京電力福島第一原子力発電所事故当時、児童養護施設に入所中で最年少の子どもは高校1年生となり、事故当時に在籍していた児童が施設から自立している。卒園してからもシームレスな支援ができるような方法を構築することを一般社団法人「すこやかなの会ふくしま」と連携して行った。具体的には、5 年間継続している卒園生への食料支援であり、ここで健康状態や現在の被曝リスク、被災体験に関するアンケートを行った。

第 13 回定時総会を 2025 年 2 月 22 日 ZOOM によるオンラインで開催して、2024 年度の活動、予算の承認を得た。また役員を改選した。理事会は 2 月(オンライン)、6 月(於児童養護施設 白河学園)、11 月(オンライン)で 3 回開催した。

事業 1: 健康状態把握事業は、「健康手帳」を、18 名と措置延長1名(このうち 2011 年に福島にいた子どもは半数)、家庭復帰した中学3年生に「健康手帳」を贈呈した。一緒に冊子「熱が出たとき」も贈呈して、各施設で卒園生にあわせた個別な自立前教育の教材として活用してもらった。ソフトウェア「すこやか日誌」を使っていない施設の卒園生 4 名にも、体温計他を贈呈した。

5回目になる児童養護施設の卒園生に食料を送る事業は、各施設のアフターケア担当職員を中心に食料を購入、箱詰めの準備をして発送してもらい、本会は資金を支援する形式に変更して 2 年目となり、122 名(うち子育て世帯 14 名)、6 施設の卒園生に食料を届けることができた。この支援の際、前年度の調査に続き、卒園してからの「健康手帳」の利用状況と満足度と共に、健康状態や心配事について調査を行った。さらに、2011 年(被災時)の居場所と年齢、そのときの思いなど、さらに原発廃炉、解体関係職の従事経験の有無についても調査した。

外部被曝のモニタリング事業は、ポケット線量計と GM 測定器による計測を 1 施設 1 力所で継続している。内部被曝のモニタリング事業では、甲状腺エコー検査は、本人、検査可能場所の都合で実施できなかった。また、県民健康調査検討委員会の配信を視聴、その他の関連の集会も含めて、放射能による健康被害や被曝に関連する情報収集は継続的に実施して、最新の情報を収集した。

新規事業として、「里子版健康手帳」の作成を開始した。里親のもとで生活している間の健康状態や成長などの記録を里子自身が活用できる内容を、A5 版にまとめ、自立後に里子が持てる健康手帳:「自分ノート」と、日々の成長記録を里親が記録する:「自分年表」(1 年に 1 冊)の試作版を作成し、同意の得られた里親に半年間記録してもらい、改訂作業を行った。

事業2: 被曝に係わる事業は、「原子力発電所の事故に関わる緊急時の対応マニュアル、2012 年 5 月、福島県社会福祉協議会児童福祉施設部会相互応援協定」の改訂は、継続課題であったが、1 年間休止した。(前出、全養協全国大会のため)

事業3: 健康教育に係わる事業は、卒園生に健康手帳を贈呈する時に、全施設では健康手帳と一緒に冊子「熱が出たとき」を渡した。これは、甲状腺の検査の必要性や自己検診の方法を解説、その他、発熱したときやケガの対処方法を含めたファーストエイドについてなどをまとめた冊子である。

事業4: 看護職等専門職の連携推進事業は、新事業として看護師の学会参加費用の補助を行い、研鑽を積むこと、さらに全国の看護師との連携促進をはかった。児童養護施設の看護に役立つ知識や情報を現役看護師自ら獲得できる働きかけをした。

事業5: 市民を対象とした啓発活動事業では、ニュースレターを 2 回(30 号、31 号「一般社団法人 すこやかなの会ふくしま」との合併号)を発行した。印刷部数を減らし 31 号は 600 部とした。

事務局運営としては、法務局登記(役員改選)の負担を減らすために行政書士への業務委託をした。理事会では、NPO 法人解散時期についての協議を開始した。

2025 年 12 月 31 日現在、正会員 28 名、賛助会員 52 名、法人会員 3 法人により支えられた。